

# 美術館のあり方

行政問題自主研究の報告から

赤堀郁彦 堤 彰  
越智二郎 鳥越春枝  
酒井 純 早川悦子  
土屋幹男 宮島 宏

## 一 美術館建設の意義

### ①はじめに

M M 21計画における美術館建設は、横浜駅周辺に目立った文化施設のなかつた本市にとって、文字通り代表的施設となるであろうが、一方、昨今の美術館建設ラッシュのなかで、関心を寄せる職員も少なからずいるであろう。

美術館については、既に本市でも担当セクションが設置され、学者や文化人による専門委員会により、基本構想についての具体的検討に入っている。

そこで私達は、(ア)美術館の機能と役割、(イ)美術館の現状と課題、(ウ)横浜の歴史と文化的風土、(エ)市民の文化活動の実態と文化施設のあり方等の幅広い分野のなかで、今日の美術館のあり方を考えていくことに心がけた。

また一方で私達は、現状の動きを考慮しつつも、職員・市民の立場から何かしらの提言を行うことを目的とした。

### ②美術館見学を終えて

ところで、私達グループは研究活動を進めるなか、五十七年一月と三月に、実際に既設の美術館に触れてみよう、と、開館間もないMOA美術館(熱海市)と池田美術館(伊東市郊外)、群馬県立美術館及び歴史博物館(高崎市郊外)を見学する機会を得た。各施設の内部の見学を通じて私達は、普段は立入れない収納庫まで覗くことができ、さらに館長はじめスタッフの人達と運営面での苦心や当面の課題等について、卒直な意見交換を行えたことは喜びであり、貴重な体験ができたと思っっている。

日常私達は鑑賞する側として、展示室を表面的に素通りするだけである。しかし、一步舞台の裏側からながめてみると、そこは美術館の一部にすぎないことがよく理解できる。華やかな企画展が実現するまでの過程には、スタッフ始め関係者達による周到な準備と苦勞の積み重ねがある。美術館という専門施設について掘り下げて考えれば考えるほど、私達の素朴な意見も所詮は素人の発

想であって、専門的見地に立てば現実から乖離した机上の空論にすぎないのでは、という不安もなかつた。

しかし、私達の質問や意見が、先方にとっても現実の切実な問題に触れる事柄であった点で、活動を進める上の支えになったと思う。

例えば、どの館でも開かれた美術館のあり方について模索している。従来からの展示中心の運営方法では、入館者は単に展示作品を鑑賞するだけで、一方通行のコミュニケーションしか成り立ち得ない。芸術的価値ある展示といった鑑賞機能を重視した方法では、地域に対する文化的貢献度は不十分であり、地域に根ざした美術館にはなれない。文化を啓蒙し、その地域の文化創造の土壌となるためには、恒常的に地域との交流が活発であり、それによって館自体の活性化を図っていくことが不可欠である。アトリエを開放しての美術教室の開催、伝統工芸に親しむ講座等種々の試みが、公立・私立の美術館を問わず試みられている。しかし、それも期待したほどの成果が得ら

れていないのが実状である。地域に根ざし、地域住民の文化水準を高め、地域文化の柱としての美術館のあり方はどこに求められるのか。これは私達のテーマだけでなく、どの美術館関係者にとっても共通のテーマともなっている。

最も印象に残った言葉として池田美術館長の話を引用したい。「この美術館は市の外れにあり、ここへの入場者はほとんどが観光客で占められる。しかし、ここは入場料に頼った独立採算制で黒字を計上している上、作品の購入まで十分かない得ている。そして職員の教育にこんなたとえ話をする。ここは差入れのお菓子が切れることがない。それはここを訪づれた人達が、再訪の際お土産に持参してくれたら、後でお礼がわりに送ってくれるからだ。それが続くには、斬新な企画展を常に心がけると同時に、親切なサービス心で、お客様に入場料に価する満足感を得てもらうことだ。差入れが切れた時こそ、この館の存在意味もなくなるよ……」

事実、池田美術館では、与えられた条

件下で最大限のあり方を求めているように感じられた。それに比べ、一般に公立

の美術館の実状はどうであろうか。民間に比較し性格も目的も異なり、公立ゆへの制約に拘束される点は理解できても、出資者ともいえる県民や市民に対して十分な還元をはたしているであろうか。さまざまな点から改善していく余地があるように思えるのである。

### ④—美術館ブームと問題点

昭和四十九年の東京都立美術館建設以来のこのブームは、戦後の高度成長時代を経て、国民所得の向上と生活面でのレベルアップに伴う地方財政のゆとり等を背景に、生活の快適さ豊かさを求める時代風潮のなかで、地域文化の土壤の場づくりとして一定の意義ある成果を生んできたことは否定し得ない事実である。しかし、そのことが各自治体にとって文化会館や体育館、図書館や公民館に続く、美術館や博物館という優先順位による、一種の業績主義的モニメントとして選択され建設されてはいないだろうか。

現在、全国で千七百に余る公私の美術館・博物館が存在しているという（五十五年度）。そして今もその類の建設が続いているが、これらのすべてが必ずしも各々の理念に裏づけされ、個性なり特色なりを打出したものが一体どれほど数えあ

げられるであろうか。

### ①—横浜の街づくりと美術館

ところで、近年、カルチャーセンターにみられる民間資本による商業文化活動が盛況であり、市主催による成人教室への参加が増えてきている。この種の活動が単に興味の域を越え、高度で専門的なものへ向かう傾向をもっていることなど、文化芸術活動に対する市民ニーズは高まる一方である。生活の場に即して、生の芸術に触れ親しむ機会を得ることは、個々の市民にとっての余暇活動に潤を与え、教養の質を高め、生活全体を豊かに意味あるものとするものと結びつく。

ところで、横浜は三〇〇万の大都市でありながら、戦後から今日まで、あらゆる文化・芸術分野において東京の後塵を拝してきたといつてよい。主要な文化的催しは東京から横浜を素通りして各主要都市に流れているのが現状である。東京方面に勤める人と通学する学生を除く多くの市民は、一見価値ある催しに接するためには、東京までの時間と労力を惜まらず足を運ばなくてはならない。

美術という領域をみても、写真、絵画、工芸、陶芸等の分野に至るまで、美術館や画廊は東京に集中し商圏をなしている。このことは、日常の私達の生活領域において、個々の趣好にそった刺激と

なる場が乏しいことを意味し、生活の場に即して容易に接することができる東京区内の人と比較し、もろもろの意味で大きなハンディを背負わせられているといえるだろう。

横浜は東京のベッドタウン的性格と、その近隣性から、開港以来の文化的風土は次第に退潮し、三〇〇万都市の市民にふさわしい文化的要求を満し得る施設はほとんど皆無といえる。一方、市民の側でも、半ばそうした現状を容認してきたようにも思われるのである。そしてそのことが横浜の都市的魅力を半減させ、横浜市民としての共通の意識を希薄なものにしている要因の一つにあげられよう。

しかし、東京のベッドタウンとしての横浜を、単なる都市住民のねぐらでない地域に根ざした生活の場として把握していくことで、都市住民のもつ多様なエネルギーを活性化させ、自由な精神の発露の場として、文化を土台とした町づくりの観点からの取組みも考えられるであろう。

そうした意味で、市民の文化へのエネルギーを有効に活用し得る施策を市が掲げていく必要があるであろう。今回の美術館建設は、単に三百万都市にふさわしいシンボル施設としてよりも、美術館を基点とした明日の文化都市ヨコハマの街づくりの布石として意味づけられないで

あるうか。そのためには、市民に広く門戸を開放し、多くの市民が協力し参画できる体制づくりが目指されねばならない。

### 二—美術館の具体的なあり方

#### ①—運営・機能

美術館の運営は、これを利用する市民に親しまれることが大切であり、そのためには、市民への開放の場と、市民へのサービス、そして市民の声を幅広くとり入れていく場が保障されるべきである（ここにいう市民とは、一部の美術団体や特定のグループに限定されるのではなく、市内の各地区でさまざまな文化活動を行っているグループや、美術・芸術を愛好する市民ひとりひとりを対象とする）。

これからの美術館は、従来の美術作品の保存展示だけの施設にとどまらず、社会教育的施設として、研究を通じてのユニークな発想による企画・運営により、外（市民）へ向かって積極的に働きかけ、美術への理解と興味を広げる活動の主体の場としての役割をもった能動的な美術館像でなければならぬ。

特に、学芸員その他のスタッフの充実にを図り、優れた研究と企画力により美術活動を活性化し、成果を市民に還元する。また常に市民との接触の場をもち、市民の声を運営に反映させ開放的な美術

館づくりを目指す必要がある。

このような市民と美術館が一体となった活動こそが、横浜市民のための美術館を特色づけることになるのである。

⑦収集・展示・企画について  
(f)収集方針

国際港都横浜にふさわしい、世界に開かれた美術交流の場としての美術館づくりを目指し収集を行うが、限られた財源で少数の名品を購入することは避け、体系的方針に基づいた各分野の収集を行う。特に絵画だけにとらわれず、彫刻、工芸、デザイン、写真、建築等にもウェイトを置いた幅広い収集を行い、こうした中から他の美術館に例をみない特色を打ち出していくことが必要である。

〈基本方針〉

ア、今後に期待される作家の作品の収集  
各分野の作家の中から権威主義にとらわれず、今後期待される作家の作品、特に現代美術の作品を中心に収集し、併せて若手芸術家の育成にもつとめる。  
イ、市民生活に関わりある分野の作品  
デザイン、建築、クラフト関係の作品の収集  
ウ、国際文化都市横浜として、広く各分野における海外の作家の作品の収集  
〈各分野別収集〉  
各分野によって収集方法も異なるので分類別に羅列する。

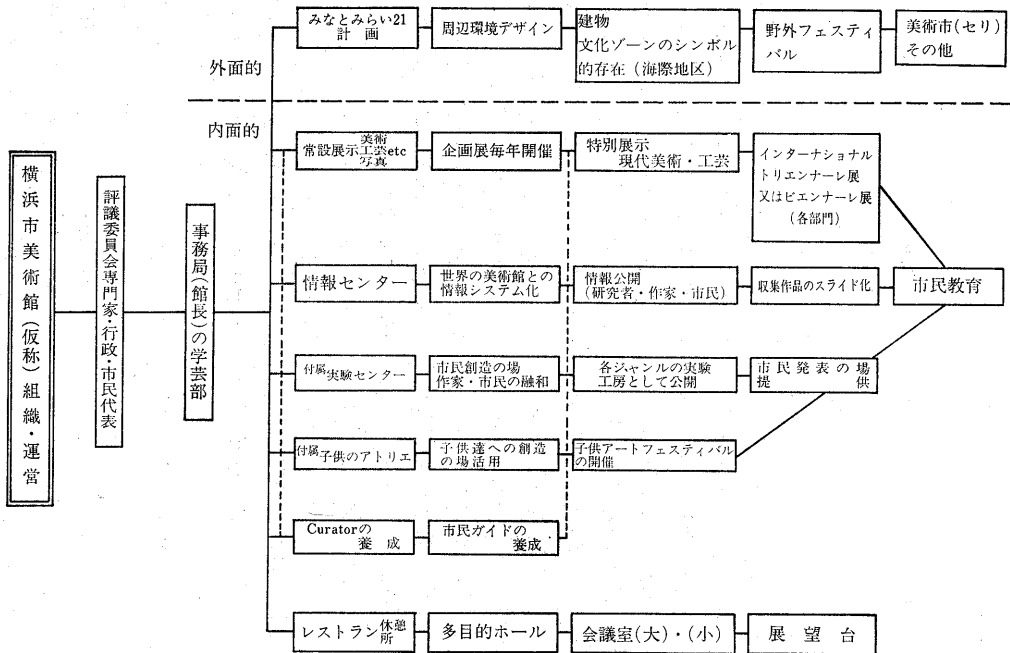
ア、絵画の場合は、ルネッサンスから一九世紀の絵画でなく、現代絵画を中心に収集。特に内外を問わず、今後期待される作家の作品（油絵・日本画を含む）。  
イ、彫刻の場合は、内外を問わず現代彫刻を中心に収集する（例、デンマークのルイジアナ美術館、彫刻、立体造形も含む）。  
ウ、美術工芸は、各セクション（陶芸、漆芸、金工、染織等）大変幅が広いが、内外を問わず現代工芸を中心に収集する。

エ、デザインの場合もジャンルが広いが、インダストリアルデザインからグラフィックまでの内外の作品を収集する。  
オ、写真の場合も、内外の現代の写真を中心に収集する。  
カ、建築の場合は、内外の現代建築の写真、設計図模型等の収集を行う。

(i)企画

市民の日常の文化活動に対応できる幅広い機能を有する、新たな概念と市民ニーズのうえにたった企画が必要である。  
〈横浜国際文化都市として、芸術活動を通して国際交流を深め、市民レベルでの相互理解を深める〉  
ア、インターナショナル・アートフェスティバル  
ピエンナーレ・トリエンナーレ形式で現代の芸術の動向を反映した質の高い国

横浜市美術館構想（案）



際評価を受け得る美術展とする。

イ、海外美術館との交流および展覧会  
海外の主要美術館または特色ある美術館と提携し、その美術館の作品を借用し、横浜で展覧会を開く。また芸術活動の交流、情報の交換等を図る。

ウ、横浜市美術館大賞

毎年、絵画、彫刻、工芸、写真、建築の各分野から活躍している作家を選び、企画展を開催し、その中から横浜市美術館大賞を選定する。

エ、世界の子供の絵画展

各国の風物、色彩感覚等の特色を表わす子供たちの絵画の展覧会を開催する。

### ② 展示

展示作品はただ並べるといふ発想ではなく、作品の種類・規模により、みやさやディスプレイ効果を十分高めるための配慮が必要である。特に照明は、展示効果を考えるうえで光源の種類や位置についての十分な研究と配慮が必要である。

また説明パネルなどもあまり専門用語を使わないで、市民が容易に理解できるようにすることが大切である。

### ④ 芸術の育成・発展および情報活動の場としての美術館

#### (ア) 市民活動と美術館

収集・保存・展示といった従来の美術館の機能に加えて、市民の芸術活動・啓

蒙の場として、市民が積極的に参加し、それによって自らを高め、また美術館とのつながりを深めるためのさまざまな活動を行っていくことが必要である。

ア、子供のアトリエ

子供たちの自由でのびやかな感性を育むアトリエや諸施設を完備し、子供の創造性を養う(アトリエ、ガラタタ広場、おもちゃ広場、展示場等)。

イ、市民創作アトリエ

市民が自由に創作できる場を提供し、絵画、彫刻、写真等の幅広いジャンルの実技の体験を通じて美術への理解を深める。

ウ、工芸センター(実験工房)

市民が自由に陶器、染織、漆などの技術と創作を学び、工芸の普及と後継者の育成を図る。とくに市内にある伝統工芸の育成も併せて図る。またデザイン機関も含めた総合的センターにすることも必要である。

エ、市民美術大学

○講義と実技を併せた一定期間の講座(各セクションを網羅)

○美術に関する講演、映画の開催

とくに開催している展覧会に合わせた講演会

オ、学校、地域サークルへの出張講演

各区、サークル等に学芸員などが出向いて市民との接触を図る。

カ、美術館案内および説明

相談コーナーを設置して気軽に館と市民との接触を保ち、美術についての相談に応える。また団体や個人の別なく説明希望があれば、積極的に説明を行う。

キ、市民芸術祭

美術ばかりでなく、市民参加による芸術祭を開く。賞などは選考せずアンデパンダン形式を採用する。

ク、美術市

市民芸術祭に併せて、市民が作品や所蔵品をもちより市を開く。収益金の一部を美術館に寄贈する。

ケ、市民ボランティア、市民学芸員の養成

美術一般についての比較的高度な研修を行い、その研修の終了者は、一定期間美術館でボランティアとして案内などを行う。また地域の文化活動にも積極的に参加活動する。

コ、学芸員、保存技術員の養成

美術館大学の要素の学芸員の養成(現在の文科系の資格を改正)、また美術品修復の技術員を育成する。

サ、美術館の夜間利用について

勤労者のために夜間時間を延長して夜九時程度まで開館する(毎日が無理であれば週のうち曜日を決めて時間延長する)。

シ、美術館友の会

従来の受益的団体ではなく、美術館を全面的にバックアップする市民組織で会員を募り、会報の発行、モニター制度、ボランティア、見学会等の活動を行う。

ス、美術館基金

現在の美術館建設基金の継続、あるいはイギリスにおける自然、建造物等の保存のためのナショナルトラストのような方式を美術館へ導入するなど、作品の収集、美術館運営への市民の協力を得る。

(1) 情報資料センター

美術関係の情報、資料を収集する。収集した情報、資料を総合的、科学的、体系的に研究・分類・整理する。

イ、情報の公開

収集・分類・整理された情報を公開する。

○研究者、作家、市民のニーズに応じ、情報を提供する。

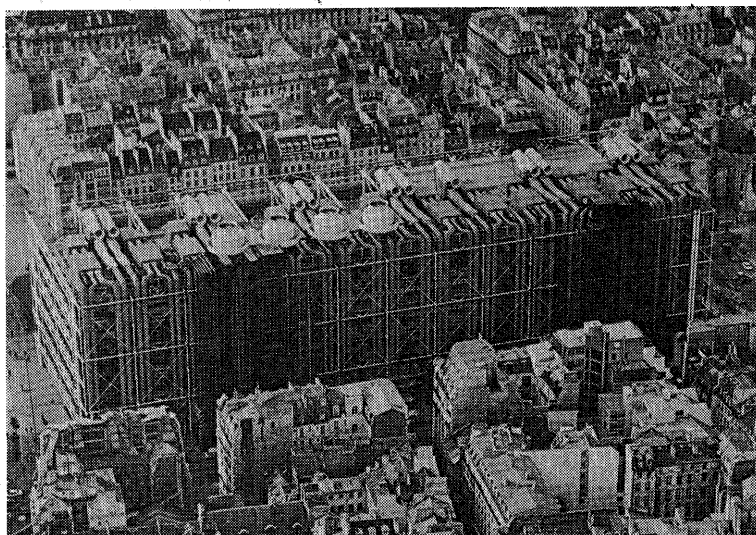
○美術館の情報・資料をもとに一般に解りやすい編集をし公開する。

○ビデオ、スライド等を併用して視聴覚面からも情報を提供する。

ウ、各美術館との情報システム化

これからの美術館は今までとは異なった運営が要求される。そのためにも各美術館との情報システムをオンライン化し、情報を的確につかみ、また相互の研究利用にも積極的にコンピュータを利用する。

写真一 1 パリのボンビドーセンター



②組織  
美術館を運営するのは人と組織であり、館の運営が円滑に積極的な活動をするには、財政的なバックアップと館長以下でのコミュニケーションによって、美術館を独立した組織によって活動しやすい方法をとる必要がある。

美術館の建築を考える場合も、「脇役としての建築」か「主役としての建築」という二つの視点が存在する。話題のパリのボンビドーセンター(写真一1)はその運営方針もさることながら、主役としての建築物がエッフェル塔以来の新名所として、市民のコミュニケーションの場としてすっかり定着しているようだ。

また、熱海のMOA美術館は、建築空間、特にアプローチのタイムトンネルを思わせる空間で、熱海の新名所として期待されている。

このように「美術館のあり方」を考えると、まず人々の人気や好奇心を衰えさせない新名所として、また美術館のいわゆる従来の役割を果たす以上に精神文化の中心となるべく、建築も前述してきた機能を満たすための脇役としてだけでなく、主役として考える必要がある。

写真一 2 宮崎県立美術館のアトリエ風景



⑦フリースペースの充実

最近の前川国男設計の美術館(山梨県立、福岡市立、宮崎県立(写真一2))には共通して「フリースペース」と「有料スペース」の巧みなプランニングがみられる。従来の入口で入場料をとる方式と違い、これらの美術館では展示室を除くロビー、市民ギャラリー、オーデイトリアム、読書室、アトリエ、売店、食堂などに自由に入入りでき、憩の場となる。

④小さなサロン・コンサートの場

渋谷区立松涛美術館は、展示室のほかゆったりとくつろげる大きなソファを設けたサロン・ミュージゼと噴水のある吹抜空間を核とした建築に特色がある。区民が欲談しながら美術を鑑賞したり、勉

強し合う静かな場所づくりを設計者白井最一は意図した。このような公共の憩いのスペースは、ひろしま美術館、掛川市の資生堂アートハウス、八ヶ岳美術館などにも共通する。

⑤個人的美術館の集合体

最近小規模の美術館や博物館に、展示物においても、また空間においてもはつきりとした個性を持った建物が生まれてきている。岡山市立オリエント美術館、ひろしま美術館、原美術館、八ヶ岳美術館、資生堂アートハウス、太田記念美術館、その他一つのテーマに限った美術館としては緑山、池田二十世紀美術館などすでに多く存在する。

横浜も含めた大規模美術館では、これら個人的な小美術館を公園に集合させた形式も考えられるであろう。

⑥疲れさせない美術館

日本の美術館や博物館には、建築物に近づき、玄関をくぐって内部を歩きはじめたころにはもう精神が重たく、どこか疲労感を覚える建物が少なくないように思う。

建物のテクスチャアについていえば、打放しコンクリートに替わり全盛のタイル貼は表現として強すぎるが、金属、パネルとガラス貼の池田二十世紀美術館は、軽やかに自然の木立を映し出している。そして、内部の仕上げでは大理石、タイ

ル貼よりは、ジュートン、フローリングブロック等が落ちつきがある。

また、空間については、県立美術館などには県展を開ける巨大空間が要求されるが、単にニュートラルな背景をつくるのでなく、常にそれぞれの空間に人間的な尺度を考えながら、さらに自由な展示を行えるように配慮することが必要である。

ところで、山口県立美術館においては、設計者鬼頭梓は次のような配慮をしている。

ア、できるだけ上下の移動を短くし、すべて斜路で行けるようにした。

イ、移動に伴う気分の断絶を防ぐために空間の連続性を重視した。

ウ、各所にホッと一息つけるような外的見える小さなアルコーブやコーナーを作った。

エ、いつでも自分の居場所が分かるように、展示室間の切れ目では動線が自然とロビーの空間に還ってくるようにした。

オ、床の仕上げを木とカーペットに統一した。

#### ④美術作品としての美術館

研修に訪れた美術館のうち「群馬の森」という県立公園には、多目的であり美術作品の額縁としての考え方である単調な矩形の組合せの近代美術館（磯崎新設計）と、大屋根によって強く個性を打ち出し、隣接する近代美術館との調和にも心を配った歴史博物館（大高正人設計）が並んでいる。

この例が示すように、ミュージアムのうちでも博物館と名がつくものの方が、その趣旨からして土地と風土を象徴した魅力ある建築の表現、空間構成が可能となり、一般に建築外観としては個性のあるおもしろい物が多いようだ。

「作品の額縁」としての脇役の建築の考えも当然あるが、最初に述べたように総合美術館においても、美術作品の主役として建築の外観にも個性を主張したものであってほしい。「国際港都よこはま」の美術館として、

写真-3 シドニーのオペラハウス



例えばシドニーのオペラハウス（写真-3）のように港の華となる建築を期待したい。

#### 三——むすび

ここに載せたものだけではまだまだ十

分意の尽くせないものもあるし、また地域全体を美術館とするような都市計画上の問題、そして将来出来上った美術館の運営上の組織の問題などが検討しきれなかったのは残念であった。

しかし最後にいわせてもらおうと、MM21計画では文化広場が中央に位置し、美術館が高い建物に囲まれるようになるが、世界に誇る横浜の美術館は、港とベイブリッジ等を一望に見渡せ、海と一体となるような位置に計画してもらいたいものである。それこそ港よこはまの美術館としてユニークな存在になるのではなからうか。

この行政研究は、総務局職員研修所が五十六年度に募集した行政問題自主研究「美術館のあり方」に応募した職員を二つに分けたうちのBグループの報告書からまとめたものである。

〈赤堀〓経済局中小企業指導センター／越智〓教育委員会学校計画課／酒井〓建築局企画指導課／土屋〓保土ヶ谷区課税課／堤〓港湾局本牧埠頭事務所／鳥越〓緑区市民税課／早川〓戸塚区中和田支所税務課／宮島〓民生局障害施設課〉